楊柳文庫

へ13
3330
3

へ13
3339
3

茶道部

武道張抑文庫巻之叁

やまのとぶん

目録

一 山本友意の文入斗り之事 巻
巻 文入斗友意并ちよ茶の事
一 山本友意の由来の事
巻 友意茶の事

大正十年八月発行
本大学出版部
贈

紙きれし

山本 一 大石内蔵之助

山本 茶

山本勘助 山本勘助入道

山本ちんしゅ 茶道

武道陽和文庫巻之三

山中長右衛門手入番の事

茶屋弁当手入番の事

勢て手入番を曲者を番の中

へうりげを切るづくちちちち

ちちちちもちびねを家

切すぐる山中い番の中く投

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
まづ一体をとりて木の根にて
[illegible]ちつとして四方の[illegible]を[illegible]
て[illegible]仏[illegible]セ[illegible]
る山[illegible]いかつちの第[illegible]
めて[illegible]をとりて[illegible]
の山路行[illegible]用[illegible]て[illegible]
[illegible]と[illegible]

[illegible]
[illegible]一日[illegible]声いとをセ[illegible]
[illegible]生[illegible]ど[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
をすり付て永眼のれば月
[illegible]も有るべ
[illegible]生るも老の
の元れ年[illegible]四角絵のれ
歌[illegible]生年[illegible]て物よるべ
[illegible]四歩りのれ
一合も[illegible]
[illegible]

年一流の一日[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]の[illegible]
[illegible]を伺く[illegible]
四助りの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑ和かうの文母よりうれ
てくとうの武たをこのゝきさで
ま武尼修行よ出て六年
がゆめ〻ゝ法華經一て今る
ものくとうてうき修
もゆうば仏宮のをこてれあれ
ども時到らば
をゆのをとうとうゆけてうと

きば元人年期修行を嘆て如
ゆど法花經のゆ
家とても源へゆて法華の
修行よつきて年
人の不幸年天魔ゆ嫉く
も捨ちれとうとう
をうをうを人ゆ風流年武尼
賢言の主を書てゆれば

[illegible]の年を吟春
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]では[illegible]弁ちまれ
て年の毎[illegible]と[illegible]
[illegible]の言葉[illegible]
を[illegible]てちくびよりちくび
[illegible]の[illegible]て感

[illegible]
[illegible]は行年も[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
の[illegible]弁ち[illegible]
[illegible]今[illegible]
[illegible]は[illegible]を[illegible]と
[illegible]

あてはくぐの為対にてそろ
苦しうそうて芝そうの白酒よ
おのの乱れ星くの帰国住ぐ
毎日どうては日数のおくまと
さうしのざきばとかうきう
袴をもうよ引きどの稚高ろ
ら立高弁ろくの一番作
しうくと左形よ手とうう

左吟の義弟は左仮解舞る
よ帰りうう支うう
高石長は帰りを住
作ようるの作作ろ
よううび義弟ろ
て程ぐ袴をのべ研をうし
ようの中うう義弟もろを
をううで中達

しるじ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のごとく語り聞かせ
侍りて一夫を立て業を科
ぜ家をも一生農業をゆるし
格果して死没せり
よりて後園を修理してよろ
しきを選ばるべし
生れ長ぜば業者を
形をさしと成日三州を立て

まづ中を九州を巡見せんと
ぎーして形石ぐ所なる
りを多仕作肥前の里橋
井の昌よりして嘉久ぐ
金剛山をのぞむ
西國ぐ四位をさぐ稲
石つーまよう萱葉の海の
ををつきの形より年名

明年を待て渡らんと申で参りよ
申しけるは今は梅氏
の故事を考へしかば佐倉も
のちよりの年を
建武の戦ひ梅氏の戦略
奇策を弄ぶこと
ならば都合
ごとく紅葉して月の
を
を
を

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なの
所をとゝ所より見をとゝぐわ申らくと
見むやと思ひてのまゝ
有朝臣の業をひようちを作り
夢幻むやうよりそぞくくのうちに
遠國まで今よりまで彦井ら
のつかよ山ちとてくぐ笑く
かとちをわを作りて見ひと
ちゝ山中陸奥幸ちゝ さて嘉水

いつかよとゝ申るを七年ちゝ
ちゝよ梅氏の殺場をめく
そゝめて梅公の陸法方宗石野
よちて知わちせるを知し
ちゝ所一をものかさ
彦井と名付寵業滅ら陸よ
山中彦井とつふとれ刻彦右衛門
ちゝ文ちゝ山中嘉水風流のら

[illegible]
[illegible]
合を[illegible]
書よりつくりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]を山陵[illegible]年[illegible]義[illegible]
[illegible]て[illegible]弁[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]て[illegible]を[illegible]せ[illegible]
[illegible]て一[illegible]弁[illegible]を[illegible]て
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]ごと[illegible]て[illegible]弁[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]て[illegible]母[illegible]
[illegible]人の[illegible]母の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]世[illegible]す[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]

四つ半とのことおのひ月日をくり
しかる世世四十七月日をくり
ゑ年ゑ家の屋敷
山中金八信幸とはこの屋敷
ゑ年ゑ御ゑ
生保家業をきく御御を

婦ゑて長崎ゑ
海ゑ海辺三年とりゑ御御
の御道ゑゑれい家臣院の
の中ゑゑて家臣作の者ゑ
家屋ゑて所ゑ御御
をまゑびきゑゑ本器用
ゑて日ゑゑ武ゑて上達
ゑ御ゑ海辺ゑちひゑ

じ父の家弁よりこの家をうと
を仕度のてるをさそもりあめで
家弁もうしのて幼づき仕度さセ
ば出世のけよ多ふるものう
んとまたしく相撲をまでセ
うう三うよ濁れば今高の
後ゆて於る十二年のとれよ
家弁うなうを生壁年

の夏母ゆも却くまて家九年
ちをゆをを地ホ知て弱き
うよ波辺三年ち侍を仕侍の
年目侍う彩くうう家
お侍まづ家弁が侍を幼と
まづ仕ゆひ家九い三年が
引ちよとうう三うよ三年
も家九ぶ十七の けよ元

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

反古書ぐ筆をとりてとうう
しまれば花も木の外
ぶびみて海ぐ月曲ちれば
色めし俊傑ちうしと早速
よ反古書をとりぐ
作ぬれ筆く反古書をとび
ちくまぐ多反古
馬ぐりを反ちる芋茎木

ぐ物筆史をうつと
とる年さちめうえのごと
芋茎木ぐつ中と成て
日く紙反をさげちうよ元
本器用の山ちれば後く
移生流を熟作ぐ
和馬郷筆郷よ
とぐく水作しまを雑

そこなる孫れ中納言殿の御
まばら年をとりてあり給年
紀ノ川のほとり和歌浦も
そこなる三百石とりて
まして義兵衛も家
よりあちこちとうばいて新年
そこなて亦極をいとなみ給
をんをそこなうて去りぬ

りまで紀ノ川のほとり和
とこ作りよりあるを門とし
てとり日ぐ新
こうきなれば
いとをそこなうなる若年
よりこそびて新者
改作中とり
そこなて流の極をこ

中ごろ寺院に義朱も見し
[illegible]事なく今はこの世の
隠れかくれて後世の菩提を願ひ
んとうのてぞあるべき

寛文陽春吉日　老之三年